

平城京天平祭

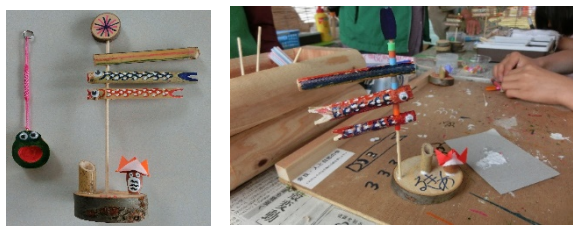
自作の鯉のぼり・カエルのストラップに 子供達も大喜び

5月3日より5日までの3日間、今や連休期間中の恒例行事とも成っている「平城京天平祭」に今年も実行委員会からの強い要請を受け、スタッフ延べ人数30名の陣容にて参加致しました。

昨年に引き続き、佐伯門周辺に特設された物づくり子供広場に、お客さん8人が同時に工作出来る小間を構え、子供達に自然工作に参加してもらい、物づくりの楽しさ、素晴らしさを親子で体験して頂きました。

昨年の天平祭では初参加にも拘わらず、5月のこの時期に相応しい鯉のぼり作りが大当たり、沢山の来客を得て実行委員会からも、物づくり子供広場催しの一番人気との高い評価を受けました。

今年は更に子供の無事帰宅を祈る「カエルのス



トラップ」もお目見え、昨年以上の好評を博し、テントの前には行列が出来る有様でした。

予想以上の客の入り、当初多少の混乱を生じましたが、途中からは整理番号を発行、お客さんの誘導も極めてスムーズに行き、友達同士や家族連れでの席確保も提供出来るようになり、お客さんからも大変喜ばれました。

振り返れば、参加が決まってからというもの、ならやまベースキャンプには毎週木曜の活動日、寸暇を惜しんで準備作業に勤しむスタッフの姿がありました。

リピーターのお客さんにも喜んでもらおうと折り紙の兜や花立ても新たに準備、親子の鯉や吹流しの飾り物の位置固定にもストローやビーズを取り



付ける工夫を施し、部品点数は12点にも上り、これまで以上のバージョンアップが図られました。

加工にはドリル、グラインダーも使用したとは言え、気の遠くなる様な地道な作業が続きました。

しかし子供達の喜ぶ姿が目に見えれば、誰ひとり愚痴を言う人などいません。反対に楽しそうに作業されていた姿がすごく印象に残っています。

初日5月3日は、ならやままでのGreen Giftプロジェクトの第2回イベントと重なり、当日のスタッフ確保に苦心しましたが、最終的には精鋭6名



の参加協力者を得て、売上総数82セットと言う驚異的な数字で初日の難関を突破致しました。

2日目以降もその勢いは持続され、2日目は93セット、そして最終日は雨天の中82セットの売り上げを達成致しました。

その間には子供たちの発想もどんどん広がり、座り込んで席を離れない子も続出、一つの作品に30分前後の時間を掛ける子も次々現れました。

子供達の目はどの子も真剣そのもの、スタッフもその熱意に打たれ出来るだけ口出しせず、子供達に寄り添い根気よく仕上がりを待つと言う気配りを見せました。

鯉のぼりでは2歳の子が、カエルのストラップでは、なんと1歳児までが自作の作品を完成させ、子供達の頑張りに親御さんのみならず私達も感動させられました。



「今年も鯉のぼり作りを楽しみに来ました」と声を掛けて下さるリピーター、「おじさんにはこの前ならやまで会ったよ」と声を掛けてくれる男の子、「孫の土産に」と頑張るおばあちゃん、1セットを完成させてから更に2セット分の材料を購入し大事そうに持ち帰る人、どの人も満足そうな笑顔でいっぱい、「今年もイベントに参加して本当に良かったな」と思える瞬間でした。

(辻本信一)